

●意見交換したいこと

・「これからやっていきたいこと」の特に赤字部分(4か所)に関して、ご意見やご助言を頂戴できましたら幸いです。

●これまでにやってきたこと・今やっていること

1. 略歴

- 1990年 アメリカ留学(18歳)
- 1996年 University of Southern Mississippi 卒業 (24歳)
- 1997年 学習教材の訪問販売 営業 (25歳)
- 1999年 研修ベンダーに転職 営業・講師 (27歳)
- 2005年 独立 (33歳)
- 2006年 法人化 (株)ラーンウェル「企業内人材育成入門」の衝撃¹
- 2007年 ASTD 中原先生とぼったり
- 2009年 東大受験 M0 ときがわ町へ移住
- 2010年 東大入学 M1 (38歳)
- 2013年 東大卒業 (41歳)
- 2016年 ときがわカンパニー(同) 設立 (44歳)
- 2017年 比企起業塾(現比企起業大学・大学院)設立(45歳)
- 2020年 コロナの影響 オンライン研修『対話型 OJT』(JMAM) (48歳)
- 2021年 『地域でしごと〜ときがわカンパニー物語』(まつやま書房) (49歳)
- 2022年 『研修評価の教科書』(ダイヤモンド社) (50歳)
- 2023年 (51歳) ← 今ここ

- 2032年 (60歳)
- 2044年 (72歳) (長女 42歳、次女 39歳、長男 36歳、次男 30歳)
- 2055年 (83歳) (長女 53歳、次女 50歳、長男 47歳、次男 41歳)

2. 大まかな目標 (12年周期)

- 36歳~47歳 【生み出す】
- 48歳~59歳(2031年) 【育てる】
 - 1) 子供達の自立(長女 29歳、次女 26歳、長男 23歳、次男 17歳)
 - 2) 比企郡を「学ぶ大人が集う場」に(比企起業大学設立 15年:卒業生 150名超)
 - 3) 発信基地でありたい(本屋、TC 通信、IR、書籍)
- 60歳~71歳 【手放す】
- 72歳~83歳 【?】 (うちの奥さんが亡くなって、数か月後に、私も死ぬ予定)

¹ 「研修業界の黒船」であった『企業内人材育成入門』から、中原先生との出会いをつづったブログ記事。ここにも書きましたが、私にとって「Fire Starter 火打石」である中原先生から、23年10月11日のゼミ発表時に頂戴した一言「関根さん、次は何をやるんですか？」に対するアンサーが、本発表です。

<https://www.learn-well.com/blog/2023/11/fire-starter-nakahara-sensei.html>

3. 事業 (「両利きの経営」「Dynamic Capability の発揮」を目指す)

右手: 企業研修(深化 Exploitation): 新人育成、現場 OJT、中途入社支援、転移促進、研修評価

左手: 研究開発(探索 Exploration): 文献読み、イロイロ実験(本屋、TC 通信等)、比企起業大学

* Academic の世界には、左足だけちょびっと入れさせてもらう。右足は、Business と Local Community に置く。

* 左手で探索していること(挑戦、失敗、学習)を、右手の深化(提案、受注、売上)で活かしていく。

●これからやっていきたいこと

1. 短期: 2024 年(52 歳) 1 年間

A. 「研修の転移と評価」実践会の活動報告 (2024 年 1 月～)

1) SCM の実践(23 年 10 月～11 月)事例(14 名参加: 10 社の事例)を整理し、レポート化

2) 発信

↑ 弊社のみでの発信とせず、参加メンバーが、社内で共有できるような媒体での発信としたい場合、どこが良いでしょう？

○ゼミメンバーからのコメント

・ラーニングデザイン(JMAM) ・企業と人材(産労総合研究所)

(この 2 誌については、ゼミメンバーに繋がりががあるので紹介可能とのこと。ありがとうございます！)

B. 比企起業大学・大学院の IR(Institutional Research) (2024 年 4 月～)

1) 定量調査: アンケート (2017 年～2023 年 57 名) (

・人数 ・入学年齢 ・性別 ・居住地域 ・主要活動地域 ・事業種類 ・事業継続年数²

・法人化 ・年商 ・雇用の有無 ・Life satisfaction ・Well-being

・SCM: 「比企起業大学で学んだことを活用して、良い結果が出た」「結果がまだ出ていない」「活用しなかった」

2) 定性調査: インタビュー (8 名ほど?)

・Work-Family Conflict ・Spillover effect(本人・配偶者・子供)³

・本人: 起業のきっかけ、比企大での学び、起業初期/現在の苦労と工夫、今後の目標、後輩への助言

・配偶者: 本人の様子、家族としての苦労、かかわりの工夫、変化した点、今後の期待

・子供: 本人の様子、自分へのかかわり方、変化した点

3) レポート: PDF でウェブ掲載、紙で 100 部刷り?

↑ 起業家支援をしている教育機関における IR は、どのようなものなのでしょうか？

・目的は？(起業家候補を増やす?)

・どんな項目が取り上げられているのか？

・成果指標は何か？(起業意志?)

² 比企起業大学入学願書申請時に、これらの情報は把握できている。

³ 先行研究からも独立起業した個人事業主、零細事業者の「非金銭的利益(職務満足、Well-being)」は高まるということが明らかになっている。しかし、家族への影響(Spillover effect)については、一部の研究(例: Wilkund et al.2019; Abreu et al.2019)でしか取り上げられていない。

○ゼミメンバーからのコメント

- ・IR ちゃんとやっている組織がどれだけあるのか。
- ・Babson は、fact at glance とか出している。[Facts and Stats | Babson College](#)
- ・イベントの回数、参加人数ぐらい。卒業した起業家をトレースしている所は殆どない。
- ・大学は、それをやっている余裕がない。
- ・アントレに特化している武蔵野大学はやってるかも。
- ・慶應発ベンチャーがどのくらいいるのか。意外と多かった。調べてなかった。
- ・東大は、20 年がんばっていたので、調べる機能はありそう。
- ・名古屋は、これから。それをやろうと言う議論が必要。

2. 中期： 2024 年(52 歳)～2027 年(55 歳) 3 年間

A. 比企起業大学・大学院「地域ミニ起業家育成基金(仮称)」の創設

1) 比企起業大学での NFT⁴の発行および「DAO⁵的コミュニティー」の運営

- ・先輩ミニ起業家⁶が、NFT を購入⁷
- ・後輩ミニ起業家の実績づくりのための「仕事発注資金⁸」として、NFT を活用
- ・先々は、比企起業大学関係者以外にも、NFT を販売

2) 比企起業大学 応援団員(仮称)制度

- ・比企郡内の個人、団体から「地域ミニ起業家育成基金(仮称)」への寄付金を募る⁹
- ・寄付金を、現金のまま、または NFT 化し、「仕事発注資金」としてプールする
- ・活用状況については、「ときがわカンパニー通信¹⁰」で報告する

⁴ NFT : Non-Fungible Token (非代替性トークン) とは、「デジタルな証明書」である。私自身は「お金に名前を付けられる」と理解している。

⁵ DAO : Decentralized Autonomous Organization 分散型自律組織。上下関係ではなく対等な人間関係を作ることを目指すため、これまでの組織運営にはない難しさがある。このノウハウを持っている人はまだほとんどいない。(加納敏彦 (2023) 『NFT・メタバース・DAO で稼ぐ!』)

⁶ ミニ起業家 = Microentrepreneur (グラットン 2012 『ワーク・シフト』)

⁷ ボーダーレスグループによる「恩送り」の仕組みを参照。先輩起業家が余剰利益をプールし、後輩起業家の事業資金にあてている (田口一成 (2021) 『9 割の社会問題は、ビジネスで解決できる』)

⁸ 実績がない独立初期のミニ起業家は、「実績がないために、信用されず、実績を作れない」というジレンマ状態に置かれる (尾形 2022 の「中途採用者が成果を出すために人脈が必要だが、成果を出さないと人脈が作れない」という中途ジレンマと似た構造)。そのため、まずは「実績づくり」のための仕事発注こそが、独立初期のミニ起業家にとって最大の支援になる。補助金、助成金や、銀行融資によるまとまった金額の支援よりも、少額でもよいので、仕事への対価としての金額支払いのほうが、独立初期のミニ起業家にとっては、助けになるのである。

⁹ 地域住民の信頼を得るための活動 (例: 月 1 回のリアル本屋運営、月 1 回のときがわカンパニー通信の発行) を継続。23 年 11 月 24 日発行の「広報ときがわ」(約 4700 世帯、人口約 1 万人) では、比企起業大学が特集されることとなった。



¹⁰ ときがわカンパニー合同会社が発行する新聞折込チラシ (A3 両面)。ときがわ町と鳩山町を中心に、4800 部を配

↑「応援団」から「お金」を得て、後輩への事業資金とする取組みとして、他に参考になるものあるでしょうか？

- ・クラウドファンディング？
- ・頼母子講？模合？（共済？）
- ・ビジネスコンテスト？ ピッチ？

○ゼミメンバーからのコメント

- ・直接はつながらないが、「場」を残すというやり方をしている人もいる
- ・<https://www.okatte-nishiogi.com/>
- ・「開いた場」の承継

B. ときがわカンパニー(左手:探索)での活動を、ラーンウェル(右手:深化)で活用する

1)ミニ起業家(自律型人材)の育成

例)吉野家ホールディングス様による「幹部候補の育成」(ミニ起業家とのペア活動) (2019年)

例)某ソフトウェア会社様での「若手 OJT 研修」(比企起業大学大学院の枠組み:

月1回3時間の MTG、目標設定と振り返り、他者からの支援、報告会での発表) (2022年～)

2)ミニ起業家(多種多様、一国一城の主)のマネジメント

- ・副業、複業、兼業人材の取りまとめ
- ・DAO 的？

↑あと3年後ぐらいに、顕在化してくる「人材開発」「研修」のニーズには、どんなものがありそうでしょうか？

- ・学生時代に生成 AI を使いこなしてきた新卒が入社し、受け入れ側先輩が戸惑う？
- ・団塊 Jr が、50代後半となり、彼ら自身のモチベーション向上と周囲への影響に対する配慮が必要になってくる？

○ゼミメンバーからのコメント

- ・「しまい方」は、ニーズがある気がする。
- ・事業承継は、相当前から準備をしないとイケない。
- ・獲得していて大きくなる時もあれば、手放す時も来る。その時に事故が多い。そこはケアされない。
- ・文字にするのはでかい。最後の最後まで残る。自分のやったことを、文字に残していく。
- ・比企起業大学を受け継いでいってくれるような人はいるのか？
- ・手放した後は、腹をくくって、口を出さず、見守る必要がある。

布。2018年11月から、月1回ペースで配布し、現時点(23年11月)で、67号を発行。編集担当は、3期生の風間ユカさん。「月1回届くのを楽しみにしている」という地域の声もあり。



3. 長期： 2028 年(56 歳)～2032 年(60 歳) 5 年間

A. 書籍執筆

1) プレイヤー(ミニ起業家本人)向け

「地域でミニ起業の始め方、続け方、終わらせ方(仮)」¹¹

2) サポーター(自治体、支援団体、教育機関)向け

「地域に、自助・共助・公助できるミニ起業家を増やすには(仮)」

B. 比企起業大学設立 15 年イベント(2031 年)実施

1) 卒業生たちの集い (約 150 名の卒業生。初期メンバーは、事業継続 10 年以上に)

2) 若い在校生の参加 (2017 年当時、10 代だった子たちが、20 代半ば以降に、入学してくる)

●なぜ、こういうことを、やっていきたいのか？

・私が死んだら、これまで経験してきたこと、得てきた知識は、いったんリセットされる¹²。

・次の人たち(例：うちの子供たち)が、自分で学び、経験していかないといけない。

(私が得てきた知識や経験の土台の上には立てない)

・研究の世界で素晴らしいのは、「先行研究への敬意」(＝巨人の肩に乗れる)

・後に続く人達が、信頼して、引用できる先行研究となるためには、研究世界の作法に従う必要あり。

(これが、私には、能力的、性格的に難しかった)

・何らかの方法で、自分がやってきたこと、得てきたことを、世の中(特に、地域)に還元したい。

・後に続く子供達が、将来を悲観せず「学び、行動し、協力していけば、何とかなりそう！」と思える状態を作りたい。

・ときがわ町には「高校は無いけど、大学がある！」 そう思ってもらえる状態に持っていきたい。

・そういうことを考え、自ら実践する大人達の集まりとして「比企起業大学」があり、

それを周囲から応援する仕組みが、NFTや応援団員制度になる。

・これらの活動を、書籍としてまとめ、残していく。

後から続く人へのヒントやモチベーション喚起のきっかけになることを期待して。

・「後世への最大遺物¹³」として、「(高尚なるかは分かりませんが)生き様」を、背中で示したい。

●これからも皆さんと・・・

・「ミニ起業家の育成」「研修の転移と評価」「現場 OJT)」に関してでしたら、何かお役に立てるかもしれません。

¹¹ 個人事業主・零細事業者の事業の「終わらせ方」として、「譲承 JoJo：事業の一部承継 Partial Inheritance」もある。(深沼・井上 2006；井上 2017)

<https://www.learn-well.com/blog/2023/02/possibility-of-partial-inheritance.html>

¹² 肉体の死後も、個人の意識が、波動情報として、ホログラム構造の中に記録されていると考える「ゼロポイントフィールド仮説」もある(田坂広志(2022)『死は存在しない～最先端量子科学が示す新たな仮説』)

¹³ 内村鑑三(2011)『後世への最大遺物』岩波新書

- ・皆さんが、ゼミ開催場所¹⁴に困ったら、「埼玉県比企郡ときがわ町」を検討ください！（受入れ人数 20 名ほどですが）
- ・比企つづきよろしくお祈いします！

●ご意見、ご助言、ご質問、大歓迎！

○ゼミメンバーのチャット(抜粋)

11:41:58 From KAKERU KATO To Everyone:

ブログを読んで今日を楽しみにしていました！

11:59:41 From Musashi BANSHO To Everyone:

源流合宿たのしそう

12:00:01 From 堀尾志保 To Everyone:

わたしもまた源流合宿したいです

12:00:30 From Musashi BANSHO To Everyone:

みなさんの写真を発見

https://www.learn-well.com/blog/2022/03/genryu-gasshuku_220316-17.html

12:11:30 From YUMI TONAN To Everyone:

人材育成プランだ・・・

12:11:46 From Musashi BANSHO To Everyone:

リーダーシップパイプライン

12:15:45 From JUN NAKAHARA To Everyone:

信頼蓄積しなきゃならない かなり前から

以上

¹⁴大学・大学院ゼミ合宿@ときがわのご案内 <https://www.learn-well.com/blog/2023/07/semi-gasshuku-tokigawa.html>